老年看護学実習

実習指導要項

老年看護学実習Ⅰ

１　実習のねがい

医療の高度化や少子高齢化が進むなか地域包括ケアシステム構築に向けてチーム医療推進等、看護を取りまく状況は変化している。平均寿命や健康寿命が延び老年期の期間が長くなっている今、人生の最期まで加齢変化や健康障害、発達課題と向き合いながら生きる高齢者の生活に目を向け、よりその人らしく生きていけるよう支えていく看護の役割は大きい。

１年生から開始している地域・在宅看護論実習では地域で暮らす高齢者と接し高齢者の行動や思いの実際に直接触れ、高齢者の生活について具体的に知り考えを深められる機会を持っている。その体験を活かし、老年看護学実習では対象の生活背景を踏まえて包括的に理解し、反応をありのままに把握することで、その人らしい暮らしを支援できるような学生指導をしていき、学生個々の高齢者観を深めたい。

病棟では、様々な機能障害をもつ高齢者が機能の回復や維持を目指し入院している。高齢者の身体的・精神的・社会的な特徴を踏まえた看護の専門的思考で看護過程を展開し援助を実践する力が求められる。疾患や治療に伴い出現した機能障害は、生活動作の変化や意欲の低下を招き，対象者ばかりでなく，対象者を支える家族にも影響を及ぼす。看護にあたっては，そのような変化を理解し，そのうえで対象を生活者として支援していく必要がある。そのため，退院後も生活の困難さを抱えながら暮らしていくことをイメージし，社会復帰や家族の支援などよりよい関係や状態を作るような支援が必要である。この実習では老年期の特徴をふまえて対象に関心を注ぎ、看護の思考のプロセスを通し、対象がねがう生活を思い描き、対象の強みを活かした看護実践に繋げてほしい。また、日々高齢者と関わり援助を行っていく中で、高齢者の特性やもつ力を活かすとはどういうことか、体験を通して学んでほしい。対象理解には、情報収集や関わりの意図、経過や現状等を読み取ることが大切である。様々な場面から学びを深められるよう、日々の場面を丁寧に振り返り、関わりの中にある高齢者の特性や強みを活かした援助について具体的に考え、表現できるよう指導し、高齢者の特性をふまえた生活者を支える看護活動について自己の考えが深められるよう指導していきたい。

＜　実習目標　＞

１）　高齢者の特性を包括的に理解し、地域で暮らす対象がねがう生活に近づける生活援助ができる
２）　対象との関わりや対象を取り巻く人々との連携から、自己の高齢者観を深めることができる

＜　評価規準　＞（めざす姿）

１）　高齢者の身体的・心理的・社会的機能の特性を捉え、対象の生活に関連付けて理解できる
２）　対象の強みを活かし安心して生活するための援助ができる
３）　対象がねがう生活と実施している援助を関連付けている
４）　実習での学びから自己の高齢者観を深めることができる
５）　医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動がとれている

2　学習内容・学習方法および指導方法

学習活動	学習内容　・学習方法	評価規準	評価資料	指導方法
対象の生活に影響している要因を見出す	◆既習の講義・演習・実習を振り返ることで、高齢者の特徴を「老いと成熟」を意識して以下の視点で捉える １）身体的変化 ２）心理的変化 ３）社会的変化 ◆対象との関わりから以下の内容を意識することで、高齢者の特徴が対象の生活に及ぼす影響について理解する １）老年期の発達課題・到達度 ２）高齢者の身体的変化・特徴が対象の生活にどのように影響しているのかを理解する ・対象の日常生活への影響（ＡＤＬ、IADL、認知力） ・対象の抱えている疾患理解（経過・既往歴・治療など） ・１日の活動状況とその反応 ・入浴、食事、排泄状況、支援の実際 ３）高齢者の心理的変化・特徴が対象の生活にどのように影響しているのかを理解する ・対象の日常生活への影響（意欲など） ・対象や家族の思いを知る ・対象の価値観（人生観・死生観）を知る ４）高齢者の社会的変化・特徴が対象の生活にどのように影響しているのかを理解する ・生活環境(家族・経済・住居・支援)の把握と対象者への影響 ・家族や地域での役割とその変化の把握 【学生の動き】 ◆病棟オリエンテーション ・実習病院・病棟の説明およびリハビリ室を含む実習環境の確認 ・病棟の特徴（病床数・入院患者の発達段階や健康障害、治療）、	高齢者の身体的・心理的・社会的機能の特性を捉え、対象の生活に関連付けて理解できる	面接 事前学習 一日の実習計画 患者記録	（実習前） ・左記、学習内容・学習方法への記載内容など加齢による変化に注目しながら、一般的な高齢者の特徴と、その特徴が生活に及ぼす影響を理解できるような事前学習に取り組むように促す ・発達課題に関しては、学生の理解が浅い場合が多いため、発達課題の理解が対象の生活や人生を考える手段の一つになることを意識できるように関わり、一般的な高齢者の発達課題について理解し、対象と出会った際に活用できる知識となるように支援する ・担当教員と実習指導者と調整し、実習目標・評価基準・実習方法を確認し、学生への実習オリエンテーション内容の確認・患者選定・学生の特徴の共有などを行う （実習１日目） ◆実習オリエンテーション ・病棟実習へのイメージが持て翌日から援助を考えていけるように、実習病院、病棟の説明およびリハビリ室を含む実習環境の説明 ・病棟の特徴（病床数・入院患者の発達段階や健康障害、治療）、職員構成、看護体制についての説明 ・病棟の業務の流れと学生の動きの具体的説明 ・病棟の構造・環境の見学、学生の使用物品（場所・

	職員構成、看護体制についての理解 ・病棟の業務の流れと学生の動きの確認 ・病棟の構造・環境の見学、学生の使用物品(場所・使用方法)の確認 ・カルテや電子カルテ使用の注意点について確認 ◆受けもち患者理解 ・受け持ち患者の決定、指導者と共に挨拶をする ・患者の１日のリハビリを含めた流れの理解 ・患者の安全を守るための方法や安静度の理解 ・カルテや電子カルテから患者の情報収集 ・受けもち患者の経過・機能障害・治療の理解、情報の整理 ・入院前の生活の様子			使用方法）の確認 ・カルテや電子カルテ使用の注意点について説明 ◆受けもち患者理解 ・受け持ち患者の決定、挨拶を行う ・受けもち患者の経過・機能障害・治療、１日のリハビリを含めた患者の生活の流れ、安全を守るための方法や安静度について具体的に伝える ・病棟での看護問題・日常生活の様子などを指導者と共有できる時間を確保する ・カルテや電子カルテから患者の情報収集取得に向けてのサポート
高齢者の特性を活かし尊重した援助の実践をする	◆対象が持つ可能性と危険性をふまえて、強みを活かした生活援助を実践する ・対象のできる力を見出す ・対象の日常生活における危険性とそれを増す要因を理解する ・臨床スタッフと相談、調整する ・ミーティングへの参加、意見交換、助言を得る ・対象の反応から行った援助を評価し、強みを活かす援助について考える ・リハビリなど必要な活動と身体機能・心理・社会面との関連理解 【学生の動き】 ◆１日の流れの確認 ・受けもち患者の１日の日常生活や援助、リハビリスケジュール、検査などの把握 ・本日の目標・計画の相談、担当看護師からの助言をうける。 ◆受け持ち患者理解 ・環境整備 ・受けもち患者とのコミュニケーション、バイタルサイン測定、全身状態の観察 ・清潔援助の実践	対象の強みを活かし安心して生活するための援助ができる	面接・ 実習状況 一日の実習計画 患者記録 ミーティング 時間調整・相談状況	◆対象が持つ可能性と危険性をふまえて、強みを活かした生活援助を実践する ・どのような介助があればできるのか・どのような道具があればできるのかなど、対象の持っている力に注目できるように関わる。できる部分に注目しつつも、その中に潜む危険性について意識できるように関わる ・援助の評価では、患者の反応を捉えて振り返りができるように関わる ・入院生活での活動が対象にどのような影響を及ぼしているのか、可能性も含めて考えられるように関わる ・環境整備、受けもち患者とのコミュニケーション、バイタルサイン測定、全身状態の観察、清潔援助の実践などが指導者と共に実施できるように調整 ◆１日の流れの確認 ・受けもち患者の１日の日常生活や援助、リハビリ、検査などの把握と、学生の看護目標・計画の共有、助言を行う ◆受け持ち患者理解

	・受けもち患者の生活援助の実施を通して発達課題と照らし合わせた患者理解 ・リハビリテーションの同行、受けもち患者の機能障害 ADL・IADL の把握 ・受けもち患者の ADL・IADL から生活のしにくさや、今後の生活への期待を把握する ・集団体操、嚥下体操参加 ・受けもち患者の強みや可能性から、日常生活援助を考え実施する ・カルテや電子カルテから情報収集 ・受けもち患者個人の思い・価値観について理解			・観察・援助を通して発達課題と照らし合わせた患者理解ができるように、指導する ・リハビリテーションの同行ができるように関係職種と調整し、対象の機能障害 ADL・IADL の把握と生活への影響の理解ができるように関わり、今後の生活への期待を考えられるように関わる ・集団体操、嚥下体操などに参加できるように調整 ・受けもち患者の強みや可能性から、日常生活援助を考え実施できるように、援助の根拠を明確にできるように関わる ・受けもち患者個人の思い、生活信条・信念・生きがいについて理解できるように関わる
自己の実践が患者がねがう生活にどのように影響しているのかを振り返る	◆対象と対象を取り巻く人たちとの関わりから、以下の内容を意識することで対象がのぞむ姿についてアセスメントする ・ニードの充足（マズロー、ヘンダーソン） ・対象の生活習慣、リズム ・入院前・中・後の生活 ・社会資源の利用状況・今後利用可能な社会資源 ・対象の今後の生活へのねがい・期待 ・家族のねがい ・ねがいを阻む要因 ・対象や家族が持つ強み ◆対象の地域での生活をイメージするために、以下の視点を意識する ・対象の生活の実際から、必要な社会資源を考える ・対象の保健・医療・福祉制度の利用状況と家族の思いの理解 ・対象の家族看護の状況把握 ・多職種連携の実際を知る ・担当者会議・リハビリカンファレンス・家族会議・認定調査などへの参加 ・対象の生活環境の実際の理解 ◆実践の振り返りを以下の視点で実施する	対象がねがう生活と実施している援助を関連付けている	面接 一日の実習記録 患者記録 ミーティング	◆対象と対象を取り巻く人たちとの関わりから、対象がねがう生活についてアセスメントする ・実現可能か否かに関わらず、対象がどのような思いを持っており、ねがう生活はどのようなものなのかについて、対象の語る言葉だけでなく、様々な視点から考えられる様に関わる ◆対象の地域での生活をイメージする ・入院前の生活を把握できるように関わる ・使用していた社会資源の把握ができ、入院による変化に伴い、調整が必要な内容について理解できるように関わる ・家族の思いや現状を理解し、対象の今後の生活について考えられるように関わる ◆アセスメント・実践・振り返り ・対象がねがう生活に向かうための生活援助計画の立案、実施、振り返り、修正ができるように関わる ・自分の計画が実施できたかどうかの評価に偏りがちになるため、患者の反応や変化を捉えられる様に関わる

	・自己の実践が、対象にとってどのような意味があったのか、対象の変化や反応を捉える ・捉えた対象の変化や反応から、自己の援助の意味を考える 【学生の動き】 ◆アセスメントから生活支援の実践 ・対象がねがう生活に向かうための生活援助計画の立案、実施、振り返り、修正 ・対象にとっての援助の意味を考える ◆スタッフ・多職種と患者理解の共有 ・スタッフカンファレンス、リハビリカンファレンス、担当者会議への参加 ◆翌日への確認 ・１日の実習の振り返り、疑問への解決 ・情報収集した内容の整理 ・翌日の自己の行動の確認、準備			・援助の評価では、患者の反応から援助の意味を考えられるように関わる ◆スタッフ・多職種と患者理解の共有 ・スタッフカンファレンス、リハビリカンファレンス、担当者会議に参加への調整 ・立案した看護の方向性の相談・発表の実施・指導 ・カンファレンステーマを意識し、学生間で意見交換できるよう、学生の体験や考えを共有し更なる発展に繋げていけるように示唆する ◆翌日への確認 ・翌日の実習がスムーズに行えるよう、実習場所の流れや注意事項など積極的に得られるよう情報の共有や促しの実施 ・学生がどのような視点を持ち対象と関わっているのかを確認し、スタッフの考えも求めるよう促す
自己の高齢者観を表現する	・対象との関わりを通して、自己の高齢者観を深める ・高齢者の特性を活かした生活援助の実践を振り返り、自己の考えをまとめ表現する ◆ミーティング・プロセスチャートの発表 ・仲間の意見や発表から自己の高齢者観の視点を広げる ・スタッフや指導者が抱いている高齢者観に触れる機会を得る 【学生の動き】 ◆学生ミーティング テーマ：学生主体でテーマ・実施頻度を決める ・臨床指導者・教員より指導・助言を受ける ◆プロセスチャート ・プロセスチャートを作成してくる　午後：プロセスチャート発表 ・作成したプロセスチャートを使い、自己の高齢者観について、実習での経験を交えて発表する ・メンバー同士の意見交換、更なる高齢者理解を深め合う ・臨床指導者・教員より指導・助言を受ける	実習での学びから自己の高齢者観を深めることができる	プロセスチャート ミーティング 実習記録	（実習前） ・実習前に、自己の高齢者観についてレポート提出を指示し、実習前と実習後で変化したこと・変化しなかったことを振り返られるようにする （実習中） ・実習中に得られた、学びをミーティングやカンファレンスで語ることができるよう、学生の体験や考えを共有し更なる発展に繋げていけるように示唆する ・ミーティングテーマや実施時期を学生が主体的に決定できるように関わる ・学生が得られた学びを、「自己の高齢者観」のテーマを意識し日々のラベルを使い、Ａ３用紙にまとめ発表できる支援を行う ・意見交換で、自己とは違う意見に触れることでさらに高齢者観が深まるように関わる

静岡市立清水看護専門学校　老年看護学実習Ⅰ　評価表　　学籍番号：　　氏名：

学習活動	具体的な評価規準	観点	評価資料	評価基準			
				すばらしい	よい	もう少し	今一歩努力を要する
対象の生活に影響している要因を見出す	高齢者の身体的・心理的・社会的機能の特性を捉え、対象の生活に関連付けて理解できる	対象理解 探求心	面接 一日の実習計画 患者記録 事前学習	一般的な高齢者の特徴を捉え、対象の生活と比較することで、生活に影響している要因を見出すことができる　20	一般的な高齢者の特徴を捉え、対象の生活と比較して考えることができている　13	一般的な高齢者の特徴を「老いと成熟」に視点を置いて捉えている　7	一般的な高齢者の特徴を「老い」に視点を置いて捉えている　3
対象の特性を活かし尊重した援助の実践をする	対象の強みを活かし安心して生活するための援助ができる	対象理解 実践力 探求心 調整力 倫理観	面接・実習状況 1日の実習計画 患者記録 ミーティング 時間調整・相談状況	対象の強みを活かした援助をすることで、尊重した援助の方法を見出し実践している　20	対象が持つ可能性と危険性を踏まえた生活援助ができる　13	対象の身体機能を把握して、日常生活における危険性とそれを増す要因を捉えている　7	対象の身体機能を把握して表現している　3
自己の実践が患者がねがう生活にどのように影響しているのかを振り返る	対象がねがう生活と実施している援助を関連付けている	対象理解 探求心 倫理観	面接 一日の実習記録 患者記録 ミーティング	対象と対象を取り巻く人たちとの関わりから地域で暮らす対象がねがう生活を見出し、自己の看護実践が対象に及ぼす影響について考えている　20	対象と対象を取り巻く人たちとの関わりから、対象がねがう生活を見出し、自己の看護実践を振り返っている　13	対象と対象を取り巻く人たちとの関わりから、対象がねがう生活を見出している　7	対象との関わりから、入院生活で対象がねがう生活を見出している　3
自己の高齢者観を表現する	実習での学びから自己の高齢者観を深めることができる	探求心 倫理観	プロセスチャート ミーティング 実習記録	実習での学びを活かしてプロセスチャートで自己の高齢者観を表現し、仲間と意見交換することで、さらに深めることができる　20	実習での学びを活かしてプロセスチャートで自己の高齢者観を表現することができる　13	プロセスチャートで自己の高齢者観を表現している　7	自己の高齢者観を表現している　3
看護の対象や仲間の尊厳、安全を護り、医療者として誠実に行動する	医療者として、看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動がとれている	倫理観	日常の行動 実習の様子 課題等提出物 出席状況 面接	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る必要性を理解し、適切な行動を取っている　20	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動を心がけている。至らない時は学び、行動を変えている　13	社会的規範は守るっているが、看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る意識が低い　5	自分の行動が看護の対象や仲間を危険に曝している　1

実習指導者助言

欠課時間数
（　　）時間／90 時間

	学生	指導者
中間評価	点	点
総合評価	点	点

実習指導者サイン　　担当教員サイン

老年看護学実習　Ⅱ

１　実習のねがい

日本では、類をみないほどのスピードで超高齢社会へと突入し、多死社会と言う大きな問題を抱えている。今後も高齢者の割合は増加し、暮らす場所のみならず人生の最後を過ごす場所も失いかけている。そのため、地域包括ケアシステムを始め、地域での暮らしや看取りが重要視されている。また、平均寿命が延びた分、疾患や障害などを抱えて生きる期間も増加傾向にある。これらのことを踏まえ、病気や障害を受け入れ、折り合いを付けながら地域で暮らしていくことが求められる社会となっている。加齢による変化に加え病気や障害による機能障害も含め、生活のしづらさを抱えて生活している高齢者が増加し、地域・家族・社会資源の協力や活用がより必要となるだろう。

老年看護学実習Ⅰでは、一人の受けもち患者に対して、生活背景や人生観を含めて包括的に対象を理解することで、対象がねがう生活に近づける生活援助を実施することを目標に実習を行っている。また、実習を通して自己の高齢者観を深めることも目指して実習に取り組んでいる。その学びに積み重なる形で、この老年看護学実習Ⅱでは、高齢者が住み慣れた地域で暮らしていくために必要な支援について考え、実践できる実習としたい。先にも述べた通り、これからの老年期の看護を考える際には、対象の地域での生活をイメージし、様々な専門職者をはじめとした多くの人たちと連携を取っていく必要がある。その第一歩として、看護師間での協働の実際を経験し学ぶ実習内容としている。複数の学生で複数の患者を担当し、必要な内容を申し送りながら継続した看護を実践していく方法を取る。プライマリーとして、一人の患者の看護に関して責任を持ちつつも、他の患者とも関わり援助も実践する。複数の患者と関わることで、自身の担当する患者の個別性に、より注目できることを期待したい。また、受けもつ学生が変わる際には、自己の看護実践について評価し、継続看護に必要な情報を適切に申し送ることで看護が繋がる経験を積み重ねていきたい。さらに、学生間の情報共有だけではなく、学生と病棟看護師間、学生と他職種間、学生と家族間など、対象を取り巻く多くの人たちと目的をもって主体的に関わる必要性を理解し、自ら行動できる力を伸ばしたい。それらの多くの人たちとの関わりから、それぞれの立場の人の思いや役割を理解することで、老年看護の役割について考え、深める実習になることを期待している。

＜実習目標＞

１）　高齢者が住み慣れた地域で暮らすために必要な支援の実践から、老年看護の役割について考えることができる。

＜評価規準＞（めざす姿）

１）　複数患者の関わりから見えたその人らしさを援助に活かすことができる。
２）　継続する看護実践のために看護チームでの協働ができる。
３）　目的をもって対象を取り巻く人と関わり、得られた情報を活用できる。
４）　地域でその人らしく暮らしていくための老年看護の役割を見出すことができる。
５）　医療者として常に看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動がとれている。

２　学習内容・実習方法及び指導方法

・学生２～４人での１チームとして、チームで継続的な看護実践を行う。
・初日に受けもち（担当）患者を決定しプラマリーとして個別性を意識した看護計画を立案する。
・立案した看護計画を基にチームで下記の日程で継続看護の実践を行い、振り返り・修正を行っていく。
例）患者Ａ氏に対する学生の動き（学生が３名の場合）

日程	担当学生	内容
１日目	学生A	・受けもち患者決定、挨拶（挨拶はチームで出向く） ・受けもち患者の情報収集、患者の問題点・ケアの聴取、コミュニケーション ・プライマリーとしての看護計画の立案
２・３日目		・立案した看護計画の実践・評価・修正・報告・共有
４・５日目	学生B	・申し送られた患者の看護計画の実践・評価・修正・報告・共有
６日目	学生A	・申し送られた情報から、看護計画の実践・評価・修正 ※他患者を受け持つことで見えてきた、受けもち患者の特性やねがいをより深めることで個別性を意識し、経過の変化や地域での暮らしを意識し、看護計画の確認修正を行う
７・８日目	学生C	・患者の個別性への振り返りから、改めて老年患者理解を深める
９・10日目	学生A	・実習終盤に向けて、対象の個別性を意識し安心してその方ののぞむ暮らしへの生活支援を整える ・患者が地域で生活するために必要な多職種・家族・社会保障・環境を改めて意識し、目的をもって対象の関わりのある方から情報を得、その人らしく生きていくための看護に繋げていく ・日々意識し表記してきた看護実践の場面から作成したポートフォリオを使い自己が到達した老年看護の役割の発表を行う

・患者ごと立案した看護計画は各ファイルにとじ、そのファイルを次の担当学生に渡していく。
・渡された担当学生は、そこに計画されている看護計画を継続し実践していく。
・実践後患者の反応や準備において不足があれば看護計画の修正を行っていく。
・看護援助実践後、必要な助言を頂き、看護計画への修正をしていく。
・午後、学生ミーティングの時間、看護の申し送りを行い学生チーム内で情報を共有し翌日に繋げていく。

※学生が２名・４名の場合は下記を参照

日程	２名の場合	４名の場合	
１日目	学生A	学生A	学生C
２・３日目			
４・５日目	学生B	学生B	学生D
６日目	学生A	学生A	学生C
７・８日目	学生B	学生B	学生D
９・10日目	学生A	学生A	学生C

学習活動	学習内容 ・実習方法	評価規準	評価資料	指導方法
高齢者の特徴や受けもち患者の個別性を尊重した援助の実践をする	①入院前後の生活する場所での暮らしを意識し、対象に必要な援助の計画・実践・修正 ②複数の患者を受けもつことで、一般的な高齢者の特徴の理解を深め、それと比較することで受けもち患者の個別性を捉え、看護に活かす ③日々の受けもち患者への看護実践から、よりプライマリーのその人らしさを活かした援助を実践する 【学生の動き】 ◆事前準備 ・老年看護学実習Ⅰでの学びの確認 （身体的・心理的・社会的変化、発達課題など） ・実習を始めるにあたっての現在の高齢者観の確認 ◆実習オリエンテーション ・実習目的・目標の確認 ・実習病院・病棟の説明およびリハビリ室を含む実習環境の確認 ・病棟の特徴（病床数・入院患者の発達段階や健康障害、治療）、職員構成、看護体制についての理解 ・病棟の業務の流れと学生の動きの確認 ・病棟の構造・環境の見学、学生の使用物品（場所・使用方法）の確認 ・カルテや電子カルテ使用の注意点について確認 ◆受けもち患者理解 ・受けもち患者（プライマリー）の決定、挨拶 ・患者のリハビリを含めた１日の時間の流れの理解 ・患者の安全を守るための方法や安静度の理解 ・カルテや電子カルテから患者の情報収集 ・受けもち患者の経過・機能障害・治療の理解、情報の整理	複数患者の関わりから見えたその人らしさを援助に活かすことができる	事前学習 老年看護記録 ミーティング 面接 ポートフォリオ	（実習前） ・老年看護学実習Ⅰの振り返りを含め、事前学習に取り組むように促す ※高齢者の特徴・社会資源等を含む ・担当教員と実習指導者と調整し、実習目標・評価基準・実習方法を確認し、学生への実習オリエンテーション内容の確認・患者選定・学生の特徴の共有などを行う （実習中） ・学生が、受けもち患者の入院前の情報を得られるように関わり、入院中の生活の場である病棟での暮らしに必要な看護を計画・実施・修正できるように支援する。学生が、病棟で実施されている看護援助を把握し、その根拠を考えて計画を立案できるように支援する ・評価の際には、客観的な視点を持ち、患者の反応や変化から評価に結びつけられるように関わる ・複数の患者と関わることで、高齢者の共通する特徴と、個別性のある部分とを捉えられるように関わり看護計画に活かせるように支援する ◆病棟オリエンテーション ・病棟実習へのイメージが持て翌日から援助を考えていけるように、実習病院、病棟の説明およびリハビリ室を含む実習環境の説明 ・病棟の特徴（病床数・入院患者の発達段階や健康障害、治療）、職員構成、看護体制についての説明 ・病棟の業務の流れと学生の動きの具体的説明 ・病棟の構造・環境の見学、学生の使用物品（場所・使用方法）の確認

	・看護師から現在の問題点、意識している看護援助の申し送りを受ける ※老年看護学Ⅰ実習で得られた、学びの活用を行い老年期の対象理解に繋げる。 ◆翌日への準備・確認 ・疑問への確認 ・情報収集した内容の整理 ・明日の実習目標・計画の立案 ・受けもち患者（プライマリー）が地域でその人らしく暮らしていくために必要な看護計画の立案			・カルテや電子カルテ使用の注意点について説明 ◆受けもち患者理解 ・受け持ち患者の決定、挨拶を行う。挨拶はチームの学生で出向く ・受けもち患者の経過・機能障害・治療、１日のリハビリを含めた患者の生活の流れ、安全を守るための方法や安静度について具体的に伝える ・病棟での看護問題・日常生活の様子などを指導者と共有できる時間を確保する ・カルテや電子カルテから患者の情報収集に向けてのサポート ◆翌日への準備・確認 ・翌日の実習に向けての計画立案を支援する ・翌日の看護援助の打ち合わせができるように関わる
看護チームの一員として、役割をはたしている	①同じ対象者への視点を看護チームで共有することで、多方向から自己の視点・思考を深める ②日々、対象に必要な援助の継続が行われるために必要な行動・工夫を自ら考え行える ③看護チームの一員としての役割を意識し、病棟看護師と学生間・学生と学生間での協働のために自ら意識し発信していく。 【学生の動き】 **◆チームの一員としての役割を行う** ・実習場所の看護体制、病棟のケア、時間の流れの理解 ・病棟看護師の行動の理解（報告・相談のタイミング、時間への意識） ・医療スタッフと相談・調整しながら対象看護の実践をより深めていく ・ミーティングの開催・参加、意見交換、助言を得る機会を意識し行動する ・チームケアを行う一員としての情報の提供・共有・	継続する看護実践のために看護チームでの協働が出来る	老年看護記録 ミーティング 面接・実習状況 時間調整・相談状況	・継続した看護が実施されるために必要な情報や工夫など、学生間の情報共有がミーティングで円滑に実施できるように関わる ・病棟の看護師とも連携できるように調整する **◆チームの一員としての役割を行う** ・病棟の看護師と連携がとれるように、病棟看護師の行動の理解（報告・相談のタイミング、時間への意識）ができるように関わる **◆担当看護師への申し送り、本日の学びを伝え、助言を受ける** ・報告の際には、患者の反応や変化を捉えた上で振り返りができているか確認し、助言をする ・「学び」が感想のみにならないように、翌日以降に繋がるように促す ・翌日以降に申し送る必要がある情報について、学生が意識できるように関わる

	相談 ・前日の学生から、患者カルテ情報、申し送りをもらい情報共有を行う **◆担当看護師への申し送り、本日の学びを伝え、助言を受ける** ・実践した看護援助から見えた対象の報告 ・得られた助言から対象理解を深め、申し送り・情報共有する必要のある内容を考える **◆学生チームミーティング** ・本日の看護援助から見えた対象理解の報告 ・患者理解のチームでの共有 ・臨床指導者・教員より助言を受ける **◆ミーティングの実施**：学生が希望時、学生主体で企画・運営・調整を行い実施する			**◆チームミーティング** ・ミーティングの企画・運営・調整を学生が主体的に実施できるように促す ・学生ミーティングに参加し、学生間での申し送り内容を確認する。内容の過不足について学生自ら気付けるように関わる。不足部分は、補うことで、翌日の学生の計画・援助が充実するように支援する
対象のねがう生活に近づけるために必要な社会支援を探求し自ら関わりを持ち活用している	①地域で安心した生活が行えるために必要な支援に気づき、自ら情報を得られる。 ②対象を取り巻く人たちの思い、関わりを知り対象の生活を支えるために多職種との連携を意識できる。 ③対象のねがう生活に近づけるために得られた情報を看護に 活かす。 【学生の動き】 **◆多職種が行う会議への参加** ・看護スタッフ・多職種・家族と患者などの会議への参加（病棟カンファレンス、担当者会議、リハビリカンファレンス・家族会議・退院支援・家屋調査、介護認定調査など） ・患者理解の共有から多職種連携の実際を知る ・他職種の活動内容、対象への影響、目的・目標の確認 ・対象を取り巻く人たちが抱いている目標、思いやねがいの傾聴から各職種の役割を深める	目的をもって対象を取り巻く人と関わり得られた情報を活用できる	老年看護記録 ミーティング 面接 時間調整・相談状況	・受けもち患者が地域で生活することをイメージして、必要な支援についての情報収集ができるように関わる ・高齢者が地域で暮らして行くためには、多くの人が関わる可能性があることを認識し、その実際を知ることで連携の必要性が理解できるように関わる ・患者に関わる人たちから得られた情報を、看護実践に活かしていけるような支援をする。 **◆多職種が行う会議への参加** ・患者に関する会議やカンファレンスに学生が参加できるように調整する。学生が参加する際には、意図を持って参加するために、目的を明確にできるように関わる ・他職種や患者を取り巻く人たちと関わることで、それぞれの目標や思い・ねがいを知ることができるように調整する ・他職種に対して、学生自ら目的を持って意図的な関

	・家族看護の状況把握、生活環境の実際の理解 ・対象の保健・医療・福祉制度の利用状況と本人・家族の思いの理解 ・対象の生活に及ぼす要因の実際から、必要な社会資源を考える ・社会支援の内容の理解・確認 ・他職種との連絡・相談・調整を自ら行い情報を得る ・地域でその人らしく暮らしていくために必要な看護の実践に向けて自ら情報の発信を行い、助言を受ける			わりを持てるように調整する。その際には、看護の視点を持って関われるように支援する。 ・患者が入院前に利用している社会資源だけでなく、患者の状態の変化により今後利用する可能性のある社会資源についても意識が向くように関わる
看護職としての役割を対象の暮らしを意識した看護実践から表現する	①学生チームメンバー、看護師間、多職種との関りから受けもち患者の個性に合わせた看護援助の実践を追及することができる。 ②日々の看護実践から見えた対象への気づき・思い・考えを、看護職としての視点から伝達が行える。 ③医療者の高齢者との関りから得られた気づきをポートフォリオに作成し自己の成長を意識できる ④地域でその人らしく暮らしていくための支援についてまとめ、発表することで老年看護の役割を見出すことができる。 【学生の動き】 ・スタッフや指導者が抱いている高齢者看護観に触れる機会を得る **◆ポートフォリオの作成** ・実習中に調べたことや考えたこと・チームでの検討事項などをポートフォリオに残していく ・高齢者の特性に合わせた、工夫や予防、支援の役割 ・仲間の意見や発表から自己の老年看護の役割の視点を広げる ・実習のまとめの資料作成・発表 ◆実習の学びの発表 テーマ：「 地域でその人らしく暮らしていくために必要	地域でその人らしく暮らしていくための老年看護の役割を見出すことが出来る	老年看護記録 発表資料・発表 ミーティング ポートフォリオ	・学生間・看護師間・他職種間での患者支援の実際を知り、実践することで、学生個々ではなくチームでの看護実践の重要性に気づけるように関わる ・他職種と関わることで共通点や違いを見出し、看護職としての視点を明確にすることができるように支援する ・日々のポートフォリオに学生の率直な思いや気づきが表出されるように関わる ・まとめの発表について、時間・場所・方法などの調整をする ・まとめの発表では、学生の学びが共有され深まるように、問いかけや促しをする。また、指導者が抱いている高齢者看護観にも触れる機会としたい ・高齢者支援の中でも、「看護の役割」は何だろうか、という問いを深められるように支援する

	な老年看護の役割」を全員で発表 ・ポートフォリオからひもとき、自己の学びを Ａ３の用紙に整理・まとめる ・発表資料の作成 ・テーマについての自己の学びを発表 ・メンバー同士の意見交換をすることで老年看護の役割についての考えを深め合う ・臨床指導者・教員より指導・助言を受ける **◆実習評価表の活用** ・実習中間評価の実施 ・評価したことで見えた課題への意識			

老年看護学実習Ⅱ　評価表　　学籍番号：　　氏名：

学習活動	具体的な評価規準	観点	評価資料	評価基準			
				すばらしい	よい	もう少し	今一歩努力を要する
高齢者の特徴や受けもち患者の個別性を尊重した援助の実践をする	複数患者の関わりから見えたその人らしさを援助に活かすことができる	対象理解 実践力	事前学習 老年看護記録 ミーティング 面接 ポートフォリオ	複数患者の関わりから、援助を振り返り、受けもち患者を尊重した援助の実践をしている 20	複数患者の関わりから見えた、対象の強みを活かした援助の実践をしている 15	対象が持つ可能性と危険性を踏まえ強みを活かした生活援助ができる 10	得られた対象理解への情報を日々整理し考え表現している 5
看護チームの一員として、役割をはたしている	継続する看護実践のために看護チームでの協働ができる	探究心 実践力 調整力 倫理観	老年看護記録 ミーティング 面接・実習状況 時間調整・相談状況	看護チームの一員として自らの役割を果たし協働している 25	継続した看護実践のために看護チームとの情報共有にチームの一員として自ら仲間に働きかけている 17	受けもち患者の看護実践のためにチームの一員として協力することができる 10	得られた情報から看護実践が行え、実施したことを表現することができる 5
対象のねがう生活に近づけるために必要な社会支援を探求し自ら関わりを持ち活用している	目的をもって対象を取り巻く人と関わり、得られた情報を活用できる	調整力 実践力 倫理観	老年看護記録 ミーティング 面接 時間調整・相談状況	多職種と関わりながら、得られた情報を活用して看護者としての役割をはたしている 20	多職種と自ら関わり情報を共有し看護に活かしている 15	対象のねがう生活に近づけるために必要な情報を自ら発見し情報を得ている 10	看護スタッフから社会支援に必要な情報を得て関連づけている 5
看護職としての役割を対象の暮らしを意識した看護実践から表現する	地域でその人らしく暮らしていくための老年看護の役割を見出すことができる	探究心 倫理観	老年看護記録 発表資料・発表 ミーティング ポートフォリオ	高齢者がその人らしく地域で暮らしていくために必要な役割について場面を活かして表現している 25	高齢者が地域で暮らしていくために必要な役割について自己の考えを表現している 17	高齢者の生活を支えていくために必要な看護の役割・機能を表現している 10	老年期の看護の特徴を表現している 1
看護の対象や仲間の尊厳、安全を護り、医療者として誠実に行動する	医療者として常に看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動がとれている	倫理観	日常の行動 実習の様子 課題等提出物 出席状況 面接	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護るために適切な行動をとり、仲間の模範となりチームをけん引している 10	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動を心がけている。至らない時は学び、行動を変えている 5	社会的規範は守るっているが、看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る意識が低い 0	自分の行動が看護の対象や仲間を危険に曝している 0

実習指導者助言

欠課時間数
（　　）時間／90 時間

	学生	指導者
中間評価	点	点
総合評価	点	点

実習指導者サイン：

担当教員サイン：